

高等部学習指導案（細案）

作業学習Dグループ

「委託作業をしよう」

作業学習（グループ作業）指導案（細案）

平成25年2月1日 金曜日 2校時
高等部 Dグループ
男子4人 女子2人 計6人
場所 高等部1年教室
指導者 佐藤誠（CT）川添直人（ST）

1 単元 「委託作業をしよう」

2 単元について

(1) 単元設定の理由

<生徒の実態>

本グループは、高等部卒業後、事業所での就労を希望する生徒を中心に、1年生1人、2年生3人、3年生2人の計6人で構成している。これまで生徒たちは、木工等の製品作りを主体とした作業学習に取り組むことで、製品の出来栄や出来高を意識し、作業に集中して取り組む姿が見られる。また、これまで本作業グループで窓清掃や洗車作業に取り組むことで、設定された時間内に作業を終わらせるために、友達と協力したり効率性を意識したりすることができつつある。

しかし、決められた時間を過ぎても作業を続けていたり、自分の作業分担が終わると友達が作業を続けていても休憩をしたりする姿が見られる。これは、時間を決めて作業をやり遂げる経験が不足しているため、時間の感覚や責任感が十分に育っていないことによると考えられる。また、自分が任された作業への意識はあるものの、友達の作業や全員で作業をすることへの意識が薄く、自分で判断して次の作業をする力が育っていないことも考えられる。

さらに、清掃道具の使い方や手順を事前に確認して作業を始めるものの、自分なりの方法で作業を進めてしまったり、頻りに教師へ確認したりするため、効率的に作業ができていない姿が見られる。また、産業現場等における実習においても、正確さや効率性に関する評価項目が課題として挙げられている生徒が多い。これは、道具を使う方法や手順の意味について理解が不十分であること、正しい手順や方法で作業を進めるためにメモを使う等、自分で正確さや効率性を判断するための方法を獲得していないことが要因ではないかと考える。

<単元の意義・価値>

このような生徒の実態を踏まえて、本単元「委託作業をしよう」を設定した。本単元では、他学部や事務部職員などから委託のあった校内清掃に取り組む。委託作業は依頼者からの要望で時間や仕上がりが決めるため、限られた時間内に作業をしたり、責任をもって友達と協力して取り組んだりすることを意識しやすい。また、製品作りを主体とした作業学習と比べると、時間内で完結する作業が設定しやすいため、生徒自身がすぐに活動を振り返ることができ、次の作業に対して作業方法や作業手順についての課題をもちやすいと考える。

<ねらい>

そこで、本単元では委託作業として校内清掃を設定し、作業前及び作業改善ミーティングを行うことで、自分の役割に責任をもち、友達と協力して作業をすることができるようにしたい。また、これらのミーティングを通して、正しい方法や手順を理解して、計画的、効率的に作業をすることができるようにしたい。

<指導観>

まず、オリエンテーションを通して、本単元における作業の内容や作業に取り組む上でのマナーなどを学ぶことで、作業の心得を知ることができるようにする。そして、自在ぼうきや文化ちりとりなどの清掃道具の使い方や、これらの道具を使った清掃の手順を学ぶことで、基本的な清掃方法を身に付けることができるようにする。清掃の基本を身に付けた後は、委託作業に取り組む。具体的には、校内施設から公共施設へと、これまでに経験した作業で実際に扱った道具や手順を基に作業種や作業場所を少しずつ広げていくことで、働く態度や社会性、様々な場に応じた清掃の技能を学ぶことができるようにする。

また、本単元では、国語科「説明書を読もう」で学んだ説明書の読み方と関連付けて、作業手順書を確認しながら作業を行う場を段階的活用場として設定する。また、総合的な学習の時間「現在の自分」で取り組んでいる「自分の夢を実現するためには、今何をしたらよいか」という問題提起から導き出された自己の課題を意識する場を、並行的活用場として設定する。

<展望>

生徒が主体的に作業改善を行いながら活動に取り組んでいくことは、他の教科等における生徒が相互に学び合う活動の活性化につながると考える。また、第三者から依頼された作業を責任をもって成し遂げることは、産業現場等における実習や卒業後の社会生活の場での社会参加の意識の向上や、適切な勤労観の育成につながると考える。

(2) 実態

観点 生徒	態度 意欲, 持続性, 積極性, 集中力	社会性 協力, 役割, 相互確認, コミュニケーション	技能 準備, 後片付け, 作業能率, 仕事の正確性, 手先の器用さ	知識・理解 目標の理解, 工程の理解, 出来栄の理解
A (1年, 女)	困ったときに作業が止まることがある。道具の使い方や, 作業手順を教師一緒に確認することで, 主体的に根気強く取り組む姿が増えてきている。	会話を恥ずかしがる様子が見られる。手を挙げる合図をしたり, 会話の内容を事前にメモ帳に整理したりすることで, 自分の意思を伝えることができつつある。	友達の動きを手掛かりに, 自主的に準備や片付けに協力して取り組むことができる。作業速度はゆっくりではあるが, ほうきや雑巾などの清掃の基本的な道具を正しく使うことができる。	前回の作業日誌を手掛かりに, 当日の作業目標を自分で立てることができる。窓清掃, 教室清掃の工程が理解できている。自分で出来栄を確認し, 報告することができる。
B (2年, 男)	時間いっぱい継続して作業に取り組むことができる。教師に授業終了後, 作業の出来栄や効率がよくなる方法を提案する等, 積極的に作業に取り組む姿が多く見られる。	自分から会話をすることを好む。役割が決まっていない作業を自主的に引き受けたり, 友達の作業が終わっていないから手伝ったりするなど, 協力することが意識できている。	作業手順書を手掛かりに正確に取り組むことができる。時間を意識して計画的に作業を行うことができるようになりつつある。作業準備, 後片付けに積極的に取り組む姿が多く見られる。	本時のめあてから, 自分の課題にあった目標を設定することができる。窓, 教室清掃の工程を理解しており, 分からない時は, 自分で手順書やメモ帳で確認することができる。
C (2年, 男)	指示に対する理解は高いが, 集中力が持続しないことがある。手順カードや教師からの言葉掛けなどで活動を確認することで, 再度作業に向かうことができる。	教師や友達と関わることを好み, 学校生活全般で自分から周りの人に質問をする姿が多く見られる。作業前に役割を設定することで, 責任をもって取り組むことができる。	役割を設定することで, 準備, 後片付けに取り組むことができる。作業を一度で正確に身に付けることは難しいが, 何度も振り返りながら繰り返すことで, 正しく身に付けることができる。	前回の作業日誌を手掛かりに, 当日の作業目標を設定することができる。窓清掃の工程は理解できている。教室清掃は, 振り返りを行いながら取り組むことで工程を理解しつつある。
D (2年, 女)	メモ帳を活用して, 間違えないように作業に取り組もうとする責任感や意欲が見られる。間違いを気にする姿も見られるが, 言葉掛けで再度前向きに作業に取り組むことができる。	ペアでの作業を設定すると, 友達と言葉を掛け合いながら, 相互確認をする様子が見られる。分からないことがあると, 教師に質問しながら作業を進めることができる。	作業速度はゆっくりではあるが, 道具を正しく使って正確に作業をすることができる。友達と相互確認をしながら作業を行うことで, 作業時間や効率性を意識できるようになりつつある。	一度学んだ清掃の工程は, メモ帳や手順カードを手掛かりにすることで, 正しく作業することができる。ポイントを理解して, 作業箇所の出来栄を正しく判断することができる。
E (3年, 男)	教師からの指示に対する理解が高く, メモ帳を活用しながら正確に作業に取り組むことができつつある。時間いっぱい集中して作業に取り組む意欲的な姿が多く見られる。	自分から友達に言葉を掛ける場面は少ないが, 友達の動きを見て, 協力することができつつある。分からないことがあると自分から教師に質問をすることができる。	作業速度はゆっくりではあるが, 時間を意識して作業できるようになりつつある。メモ帳やワークシートを活用して, 正確に道具を使い, 効率性を意識して作業することができつつある。	これまでに取り組んだ窓や教室清掃の工程は正しく理解, 実践することができつつある。時間は掛かるが, 清掃の出来栄を正確に判断して, 教師に報告することができる。
F (3年, 男)	次の工程に移るときには, 積極的に全員に向けて作業開始の言葉を掛ける様子が見られる。時間いっぱい集中して作業に取り組むことができる。	リーダーであることを意識し, いつも笑顔で友達や教師と関わることで, 役割を設定することで, 友達と協力して積極的に活動に取り組むことができる。	友達の動きを参考にしながら作業に取り組むことができる。定型の作業を繰り返し, その都度, 教師と道具の使い方や作業の手順を振り返ることで, 正確に作業することができる。	作業日誌を教師と振り返ったり, 目当てを確認したりすることで, 自己目標を設定することができる。作業箇所の出来栄を正しく判断することができつつある。

3 単元目標

(1) 全体目標

ア 自分の役割に責任をもち、友達と協力して清掃をすることができる。【態度】【社会性】

イ 正しい方法や手順を理解して、計画的、効率的に清掃をすることができる。

【技能】【知識・理解】

(2) 個人目標

生徒	個別の指導計画の目標	個人目標
A (1年, 女)	ア 自分の役割を意識して作業をすることができる。 イ 正しく計画的に作業をすることができる。	ア ペアと自分たちの役割を相互確認しながら、清掃をすることができる。 イ メモ帳や手順表を手掛かりに、正しい方法、手順で清掃をすることができる。
B (2年, 男)	ア 自分の役割だけでなく、友達の手伝いをしながら作業をすることができる。 イ 手順を工夫しながら、効率的に作業をすることができる。	ア 全体に役割分担や工程確認の言葉掛けをしたり友達の手伝いをしたりして、清掃をすることができる。 イ 過去の清掃活動の経験を生かし、状況に応じて工夫しながら、清掃をすることができる。
C (2年, 男)	ア 友達の動きを手掛かりにしながら、作業をすることができる。 イ 友達と出来栄を相互確認をしながら、正しく、時間内に作業をすることができる。	ア ペアと役割を確認したり友達の動きを手掛かりにしたりしながら、清掃をすることができる。 イ 正しく道具を使い、友達や教師と手順や出来栄を確認しながら、時間内に清掃をすることができる。
D (2年, 女)	ア 友達と手順を確認しながら作業をすることができる。 イ 正しく、時間内に作業をすることができる。	ア 自分から友達に一工程ずつ確認の言葉掛けをしながら、清掃をすることができる。 イ メモ帳や手順表を手掛かりにすることで、正確に時間内に清掃をすることができる。
E (3年, 男)	ア 友達に確認の言葉掛け等をしてしながら作業をすることができる。 イ 正しく効率的に作業をすることができる。	ア 友達に工程確認の言葉掛けをしたり、自分の役割だけでなくペアの手伝いをしたりして清掃をすることができる。 イ 過去の清掃活動の経験を生かし、正しい方法、手順で効率的に清掃をすることができる。
F (3年, 男)	ア 自分の役割を確認しながら、作業をすることができる。 イ 友達と道具の使い方を相互確認しながら、正しく作業をすることができる。	ア 友達の動きを手掛かりに、自分の役割を確認しながら清掃をすることができる。 イ 道具を正しく使ったり、友達と相互確認をしたりして、清掃をすることができる。

4 指導計画（総時数42時間）

次	主な学習活動・内容	時数	習得型と活用型の学習活動について
一	1 オリエンテーション ○ 作業の心得を話し合う。 ・ 本単元での清掃の内容を知る。 ・ 作業に取り組む上での心得（心掛け、マナー）を話し合う。	2	○ 【習得】これから作業に取り組むに当たっての心掛けやマナーを話し合い、作業に対する責任感を高める。
二	2 正しい清掃の方法を確認する。 (1) 必要な道具の使い方を確認する。 ・ 自在ぼうきの使い方を確認する。 ・ 文化ちり取りの使い方を確認する。 ・ 雑巾の使い方を確認する。 (2) 掃除の手順を知る。 ・ 上から下へ取り組むことを知る。 ・ 机、椅子などを廊下に出すことを知る。 ・ 自在ぼうきで掃く順序を知る。 (3) 教室清掃をする。 ・ 役割、時間設定を決める。 ・ 教室清掃をする。 ・ 点検・報告、片付け報告をする。 (4) 振り返りをする。 ・ ビデオを視聴する。 ・ 全員で意見を出し合い、次回以降の清掃の方略を立てる。	10	○ 【習得】教室清掃に必要な清掃用具（自在ぼうき、文化ちり取り、雑巾）の使い方を確認し、教室清掃に必要な知識・技能を高める。 ○ 【習得】教室清掃の手順（準備、机拭き、掃き掃除、点検・報告、片付け・報告）を確認し、清掃に必要な知識・技能を高める。 ○ 【活用】習得した道具の使い方や手順を踏まえて、教室清掃を行う。 ○ 【習得】改善ミーティングの目的と方法を知り、活動の流れを知る。
2時間（(1)～(3)：1時間、(4)：1時間）のサイクルで(1)～(4)の学習を繰り返し行い、清掃の正しい方法を習得し、学んだことを三次、四次で活用できるようにする。			
三	3 委託作業（校内清掃）をする。 (1) 必要な道具使い方を知る。 ・ ダスタークロスの使い方を知る。 ・ 水モップの使い方を知る。 (2) 掃除の手順を知る。 ・ 廊下清掃の場合は、ダスタークロスから水モップの手順で清掃を行うことを知る。 (3) 校内清掃をする。 ・ 依頼の内容を確認する。 ・ 役割、時間設定を決める。 ・ 教室清掃をする。 ・ 点検・報告、片付け報告をする。 (4) 振り返りをする。 ・ ビデオを視聴する。 ・ 全員で意見を出し合い、次回以降の清掃の方略を立てる。	本時 14/20	○ 【習得】校内清掃に必要な清掃用具（ダスタークロス、水モップなど）の使い方を知り、廊下清掃に必要な知識・技能を高める。 ○ 【習得】校内清掃の手順（準備、ダスタークロスを使った清掃、水モップを使った清掃、点検・報告、片付け・報告）を知り、清掃に必要な知識・技能を高める。 ○ 【活用】習得した道具の使い方や手順を踏まえて、校内清掃を行う。 ○ 【活用】二次で学んだ改善ミーティングの活動を通して、効率良く作業するための方法に気づき、次回の作業の方略を立てる。
2時間（(1)～(3)：1時間、(4)：1時間）のサイクルで(1)～(4)の学習を繰り返し行い、清掃の正しい方法を習得し、学んだことを四次で活用できるようにする。			
四	4 委託作業（公共施設）の清掃をする。 (1) 清掃をする。 ・ 委託の内容を確認する。 ・ 役割、時間設定を決める。 ・ 教室清掃をする。 ・ 点検・報告、片付け報告をする。 (2) 振り返りをする。 ・ ビデオを視聴する。 ・ 全員で、意見を出し合い、次回以降の清掃の方略を立てる。	10	○ 【活用】一次～三次で習得した清掃方法を生かして、公共施設の清掃を行う。 ○ 【活用】二次、三次で学んだ改善ミーティングの活動を通して、効率良く作業するための方法に気づき、次回の作業の方略を立てる。
2時間（(1)～(3)：1時間、(4)：1時間）のサイクルで(1)～(4)の学習を繰り返し行い、清掃の方法を振り返り、次回の作業に生かすことができるようにする。			

5 本時の学習 (26/42)

(1) 全体目標

みんなで話し合い、効率よく作業するための方法に気付くことができる。

【態度】【社会性】【知識・理解】

観点	評価規準
態度	① 友達の意見を聞こうとする。 ② ビデオを見ようとする。
社会性	③ 友達の意見を聞いて、発表する。 ④ 話し合いの手順や決まりに沿って、話し合う。
知識・理解	⑤ 正しく作業するための道具の使い方を理解することができる。 ⑥ 正しく作業するための作業の手順を理解することができる。

(2) 個人目標

生徒	個人目標
A (1年, 女)	振り返りのビデオを見て、チェックリスト等を手掛かりに、作業の改善点に気付く、自分の考えを発表することができる。 ②③⑤⑥
B (2年, 男)	ビデオや今までの作業を手掛かりに、自分や友達の意見を整理して、次の作業への改善策を見付けることができる。 ③④⑤⑥
C (2年, 男)	ビデオで自分の動きを振り返り、正しく作業するための方法を再確認したり、友達の良いところに気付いたりして、効率的な作業の方法を知ることができる。 ①②④⑤⑥
D (2年, 女)	振り返りのビデオを見て自分の考えを整理し、作業の改善点を見付けることができる。 ②④⑤⑥
E (3年, 男)	ビデオを見たり、教師の支援を受けたりしながら、自分や友達の意見を整理して、次の作業への改善策を見付けることができる。 ③④⑤⑥
F (3年, 男)	ビデオで自分の動きを見て、チェックリスト等を手掛かりに、正しく作業するための方法を再確認したり友達の良いところに気が付いたりして、効率的な作業の方法を知ることができる。 ①②③④⑤⑥

(3) 指導及び支援に当たって

学習活動の概要と授業環境の工夫

前時までに、自在ぼうきやモップなどの基本的な清掃道具を使って、正しい方法で清掃したり、ビデオ等を用いて実際の作業を自分たちで振り返ることで、友達と協力して作業したりできつつある。しかし、清掃場所が変わったり使用する道具の組み合わせが変わったりすると、工程によっては何をしても戸惑ったり掃き残しやふき取り残しが見られたりする。本時では、前時に本校の生活訓練棟である「なかまの家」で行った清掃を振り返り、次回以降の作業に向けた方略を立てることで、効率よく作業するための方法に気付くことができるようにする。

授業環境としては、展開時のホワイトボードを使った意見交換時に、友達同士の距離を近づけたり、ホワイトボード前に半円状に席を配置したりすることで、文字を読みやすくしたり意見交換をしやすくしたりする。

教材・教具とのかかわりについて

生徒がビデオを視聴しながら、自分の考えを整理しやすいように、気付きの記録をとるためのワークシートを活用できるようにする。ホワイトボードを使った意見交換の場では、平面図と机等を示したマグネットを使って、実際に作業のシミュレーションができるようにする。また、実際の清掃道具を準備しておくことで、正しい清掃道具の使い方をすぐに振り返ることができるようにする。

友達・教師とのかかわりについて

意見交換の場では、ホワイトボードに全員の意見を掲示することで、視覚的に友達の意見を確認・整理しやすくし、意見交換が活発にできるようにする。CTは、ファシリテーター（進行役）として生徒に意見を求め、生徒から意見や考えを引き出すことができるようにする。また、STは、ワークシートに整理した自分の意見と発表することが難しい生徒に対して、良い気づきがあれば称賛し、みんなに伝えることができるような言葉掛けをする。

自分とのかかわりについて

ビデオ視聴後の自分の気づきや改善策を考えるときには、「友達が自分と比べてどうだったのか。」「自分だったらどうするのか。」ということ意識できるようにする。また、終末時には、改善ミーティングでの話し合いや、これまでの作業日誌での自己目標を振り返ることで、次の自己目標を意識することができるようにする。

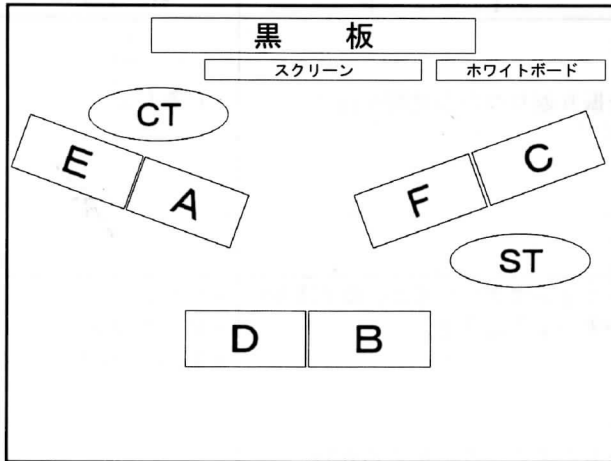
(4) 実際

過 程	主 な 学 習 活 動	A	B	
		導入 (5分)	1 始めの挨拶をする。 2 本時の活動とめあてを知る。 【活動】 なかまの家での清掃を振り返り、みんなで、効率よく作業するための方法を考える。 【めあて】 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> 正しく作業するための方法を考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達と一緒に挨拶をすることで、話す内容を注意して聞くように言葉掛け 前回の改善ミーティングで話し合った改
展開 (40分)	3 ビデオを視聴する。 (1) 振り返りのポイントを確認する。 (2) 前回の作業のビデオを視聴する。 4 二つのグループに分かれて、気付きや感想を発表する。 (1) 各自で、ミニホワイトボードに気付きや感想を記入する。 (2) 一人ずつミニホワイトボードに記入した内容等を発表する。 5 全員で話し合いをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;"> <話し合いの視点> ① 正しく道具を使うことができていますか。 ② 正しい手順で作業ができていますか。 </div> (1) 全員で友達の書いたミニホワイトボードの内容を確認する。 (2) 確認した内容に沿って、視点①、②について話し合う。 (3) 良かった点と改善点についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 前回の改善ミーティングで話し合った改手順で作業を行うことができていますか) を D, Fが、進行表を手掛かりにすること 道具の使い方については黄色のミニホワイトボードの作業のポイントを ビデオや今まで の作業の経験を手掛かりにすることで、気付いたことをミニホワイトボードに整理しやすいようにする。 ホワイトボードの読む箇所を確認することで、自分の気付きや感想を発表できるようにする(CT)。 声が小さくて聞き取りにくいときは、大きな声で発表するように言葉掛けをする(ST)。 ボード前のテープを貼った位置に椅子をする。 ファシリテーター(進行役)として話しにする(CT)。 生徒から意見が出ない場合に、参加者の出やすいようにする(ST)。 全員のミニホワイトボードを同じ意見毎に整理する場を設定することで、自分の気付きや課題を意識できるようにする(CT)。 工程の工夫等を、うまく伝えることができないときは、平面図とマグネットを使うことで、友達に自分の意見を伝えることができるようにする。 Eと意見を照らし合わせることで、正しい方法を確認することができるようにする。 		
終末 (5分)	7 まとめをする。 (1) 元の座席に移動し、次回の作業の改善策や目標を作業日誌に記入する。 (2) 次回の作業内容を確認する。 8 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> 集約された改善策をホワイトボードに記 	<ul style="list-style-type: none"> 次回の作業の改善策や目標を作業日誌に 次回の作業場所を伝えることで、活動の 教師や友達と一緒に挨拶をすることで、 	

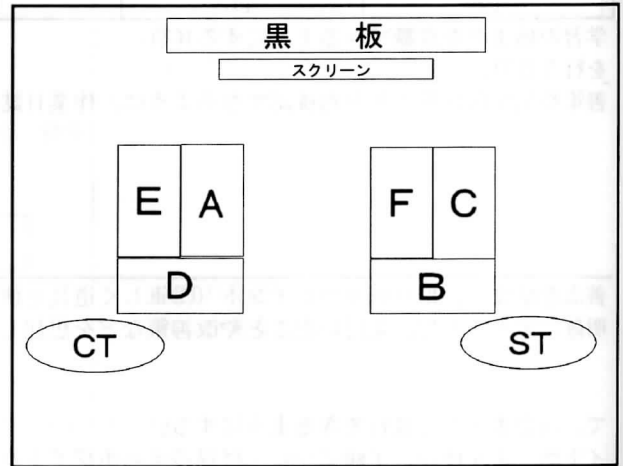
指導及び支援上の留意点				資料・準備
C	D	E	F	
<p>学習の始まりを意識できるようにする(CT)。 を行う(CT)。 善策や気を付けることを再確認できるように、作業日誌を振り返りながら発問を行う。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 作業日誌
<p>善点を踏まえ、振り返りのポイント(①正しく道具を使うことができているか、②正しい明確にすることで、気付いたことや改善策などを想起しやすいようにする。</p>				<ul style="list-style-type: none"> プロジェクター ビデオカメラ 振り返りチェックリスト
<p>で、司会者として進行できるようにする。 イトボードを使い、手順については緑のミニホワイトボードを書くように伝える(CT)。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ミニホワイトボード 必勝ブック 作業日誌 メモ帳 進行表 清掃道具 マグネット 平面図
<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方を中心にミニホワイトボードに記入をするように伝えることで、ポイントを更に焦点化することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ビデオだけでなく、過去の実習日誌、メモ帳を手掛かりにすることで、清掃を振り返りやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ビデオだけでなく、過去の実習日誌の目標や反省を手掛かりにすることで、視点を明確にして整理することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に、作業のポイントを示すチェックリストを手掛かりにすることで、清掃を振り返りやすくする。 	
<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすく伝えることが難しいときには、実際の清掃道具や平面図を使って発表できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の発表を、最後まで聞くように言葉掛けをする(CT)。 	<ul style="list-style-type: none"> 声が小さくて聞き取りにくいときは、大きな声で発表するように言葉掛けをする(ST)。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすく伝えることが難しいときは、実際の清掃道具を使って発表することができるようにする。 	
<p>持って移動することで、ミニホワイトボードが見えやすい位置で意見交換ができるように</p>				
<p>合いに参加することで、自分の意見は言わずに、生徒の意見を引き出すことができるよう</p>				
<p>一人として、気付きや改善すべき点の手掛かりとなる発言をすることで、生徒から意見が</p>				
<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方で見えやすかったときには、実際の清掃道具を使って、確認することができるようにする。 作業の手順を確認するときは、必勝ブックを手掛かりにすることで、正しい手順を確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達が話している途中は、話を最後まで聞くように言葉掛けをすることで、落ち着いて活動に取り組むことができるように支援する(CT)。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の意見を整理した後で、友達の意見と自分の意見を比べ、次回どのようにするか考えることができるようにする(CT)。 STと一緒に意見をまとめることで、自信をもって発表できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 道具の使い方で見えやすかったときには、STと一緒に実際の清掃道具を使うことで、その場で確認できるようにする。 	
<p>入し、次回の作業のポイントを意識することができるようにする(CT)。</p>				
<p>記入することで、次回の学習で生かすことができるようにする。</p>				<ul style="list-style-type: none"> 作業日誌
<p>見通しをもつことができるようにする(CT)。 学習の終わりを意識できるようにする(CT)。</p>				

(5) 場の設定

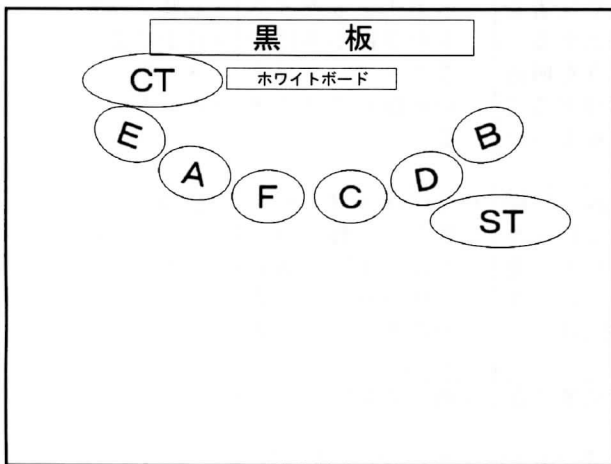
ア 導入、展開（ビデオ視聴）



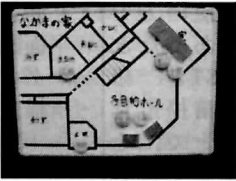

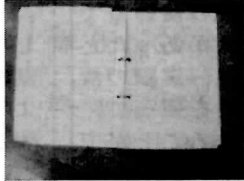
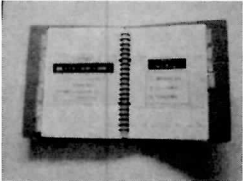
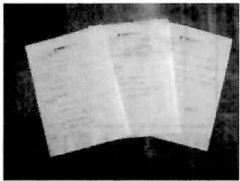

イ 展開（グループでの話し合い活動）、終末



ウ 展開（全員での話し合い活動）



(6) 教材・教具

平面図	スケジュール表	作業日誌
 <p>マグネットやマーカーを使って、担当場所や手順を確認するためのもの。</p>	 <p>時系列で、作業工程、担当場所、必要な道具を確認するためのもの。</p>	 <p>毎回の作業の目標、場所、反省等を記録し、振り返りができるようにしたもの。</p>
<p>必勝ブック</p> 	<p>振り返りチェックリスト</p> 	<p>ミニホワイトボード</p> 
<p>各教科等で、これまでの学習で使用した要点がつづつあるもの。</p>	<p>ビデオを視聴するときの気付きのポイントを示したものの。生徒Aと生徒Fが使用。</p>	<p>ビデオ視聴後に、各自で作業の気付きや感想を記入するためのもの。</p>

(7) 評価

ア 全体目標に対する評価

みんなで話し合い、効率よく作業するための方法に気付くことができたか。

【態度】【社会性】【知識・理解】

イ 個人目標に対する評価

生徒	個人目標に対する評価基準	評価	具体的な手立ての評価	評価
A (1年, 女)	A: 作業の改善点に気付き, 自分の考えを発表することができた。 B: 教師の言葉掛けを手掛かりに, 作業の改善点に気付き, 自分の考えを発表することができた。 C: 清掃の改善点に気付くことが難しく, 自分の考えを発表することができなかった。		振り返りのチェックリストの内容は分かりやすく, 教師の活用方法の説明は適切であったか。	
B (2年, 男)	A: 自分や友達の意見を整理して, 次回の作業への改善策を見付けることができた。 B: まとめの場面で次回の改善策を聞いて, 次回の作業への改善策を見付けることができた。 C: 次回の作業への改善策を見付けることができなかった。		ビデオの提示場面は, 振り返りの手掛かりや方略を決めるに有効なものであったか。	
C (2年, 男)	A: 正しく作業するための方法を再確認したり, 友達の良いところに気付いたりして, 効率的な作業の方法を知ることができた。 B: 教師の言葉掛けを受けて, 友達の良いところに気付き, 効率的な作業の方法を知ることができた。 C: 正しく作業するための方法や友達の良いところを知ることができなかった。		清掃道具で正しい道具の使い方を確認することは, 次回の自己目標を立てるために有効であったか。 作業日誌は, 正しい清掃方法等を知るのに有効であったか。	
D (2年, 女)	A: 自分の考えを整理して, 作業の改善点を見付けることができた。 B: 教師や友達の意見を受けて, 作業の改善点を見付けることができた。 C: 作業を改善点を見付けることができなかった。		メモ帳や作業日誌は, 正しい工程を確認して方略を立てる上で有効であったか。	
E (3年, 男)	A: 自分や友達の意見を整理して, 次回の作業への改善策を見付けることができた。 B: 友達の意見を受けて, 次回の作業への改善策を見付けることができた。 C: 次回の作業への改善策を見付けることができなかった。		教師によるBとの考えの比較を促す質問は, 正しい方略を立てる上で有効であったか。	
F (3年, 男)	A: 正しく作業するための方法を再確認したり, 友達の良いところに気付いたりして, 効率的な作業の方法を知ることができた。 B: まとめの教師や友達の意見を受けて, 効率的な作業の方法を知ることができた。 C: 次回の作業に向けて, 効率的な作業の方法を知ることができなかった。		振り返りのチェックリストを活用することは, 正しい道具の使い方に気付くために有効であったか。 作業日誌は, 正しい清掃方法等を知るのに有効であったか。	

評価基準 A:十分に達成した姿 B:ほぼ達成した姿 C:更なる指導及び支援が必要な姿

手立て A:十分に有効であった B:有効であったが十分ではない C:あまり有効ではない